

6年 本郷学習（ふるさと学習）

令和3年10月6日(水) 1・2・3時間目

◇講師に白倉地区にお住まいのおぎそ たけお 小木曾 健夫さんに案内をしていただき、白倉地区、本郷地区、南垣外地区のしせき しんじや たず 史跡や神社を訪ね、日吉町南部地域のなんぶちいき れきし 歴史を学びました。

白倉地区にある2つのとうろう 灯籠は、どちらも天保15年に建てられ、しゅうどうろ すけごうどう 主要道路「助郷道」を照らしました。宇洞田の灯籠は、5m以上もあり、その大きさと建てられた過程にかてい おどろ 驚きました。基礎部分に刻まれた「村中」という文字は、村のみんなで建てて活用していくという意味だということがわかりました。

南垣外地区のさかなみじんじや 酒波神社は、1000年以上も古い歴史があり、境内のけいだい しょうろう 鐘楼とともに国の有形文化財として大切にされています。宮司のぐうじ 三輪さんにもお話を聞き、昔も今も地域の方に大切に守られている神社ということがわかりました。

本郷地区の十三仏は、土崎市や明世町から中山道へ続く主要道路「助郷道」の日吉町の入り口に建てられました。天保13年に十三の仏様が彫られ、その3年後にあみ ださんぞん ついか 阿弥陀三尊が追加して彫られたそうです。中山道と同じように「助郷道」を中心に、日吉の町が栄えたことがわかりました。



【現地学習をしての感想】

- ◇大きな灯籠が、村全員でお金を出し合って協力して建てられたと知り、とても驚きました。まだ知らない日吉町の灯籠などを自分で調べて見に行きたいです。
- ◇本郷と南垣外と白倉が、助郷道でつながっていることがわかりました。近くに住んでいても知らないことばかりだったので、もっと史跡を知りたいです。